

「イチャリバチョーデー」、南米に伝えます！」

問い合わせ 国際交流課(内線2611)



研修スケジュール

研修生は、午前は日本語研修、午後は文化研修を受けます。

	月	火	水	木	金
午前	日本語	日本語	日本語	日本語	日本語
午後	市役所	琉舞	市役所	書道	生け花 三線

文化研修

文化研修では、三線、琉球舞踊、書道、生け花を学びました。ほとんどが初めての経験でした。琉球舞踊では、体の動かし方や歩き方から学び、「かぎやで風」と「かなよー」が踊れるようになりまし

た。先生方の熱心なご指導のおかげで、5か月間で見違えるほど上達しました。

企業訪問研修

企業訪問研修では、日本の企業や経済などに理解を深めてもらうため、研修生が希望する分野で企業訪問を実施しました。エリサさんは商品の製造過程に関心があり、「沖縄コカ・コーラボトリング株式会社」と「有有限会社マルキヨ製菓」に受け入れていただきました。ペルーとの工場や製造過程の違いを学びました。



▲生け花の研修



▲書道の研修



▶沖縄コカ・コーラ



▲マルキヨ製菓

今年7月に来沖し研修をスタートさせた比嘉エリサさん(ペルー)と大城ブルーナさん(ブラジル)が、約5か月間の研修を終え、12月に帰国しました。沖縄滞在中は、日本語や文化研修に励むだけでなく、市民との交流を積極的行い、移民や海外について伝えました。そんな二人の研修や沖縄滞在の様子を紹介します。

南米移住者子弟研修生受入事業とは？

この事業は、南米に移住した浦添市出身者をルーツに持つ子弟を受け入れ、県内で日本語や文化研修などを実施し、浦添市と移住先国との架け橋として活躍できる人材を育成しています。沖縄振興特別推進交付金を活用して実施され、研修期間は、研修だけでなく、市民との交流を通して移民や海外の文化を伝えることが期待されています。

修了式・送別会

12月3日、研修の修了式と送別会が行われ、市長から修了証書が授与されました。送別会では、琉球舞踊や三線の披露、生け花や書道の展示をしました。お世話になった親戚や講師の方々、企業訪問受け入れ先、友人な



▲前田幼稚園でブラジルの文化を紹介しました

ブラジルの幼稚園で働いていたブルーナさんは、「前田幼稚園」での研修を希望しました。幼稚園では、子どもたちが掃除をしていることに驚き、ブラジルとの違いを学びました。

地域との交流

研修生は、沖縄滞在中に地域との交流を通し移民や南米について伝えました。8月に開催された「ものづくり体験フェア in サンシルク」や11月の「おきなわ国際協力・交流フェスティバル」に出席し、南米のおもちゃ作りを紹介しました。始めは、日本語で上手く説明できるか不安でしたが、だんだん慣れていき、楽しみながら交流することができました。

「南米にも浦添があります」

南米で今でも「浦添・沖縄文化」が受け継がれていることを知ってもらおうと、ブルーナさんの出身地である

ど多くの方が見守る中、研修の成果を発表しました。市長からは「この研修が人生の中で大切な思い出として深く記憶されていき、母国と浦添市を繋ぐ架け橋として活躍してほしい」と激励の言葉が送られました。



▲安里屋ユンタを披露しました



▲一生懸命練習した琉球舞踊



▲お世話になった身元保証人と一緒に

城間とエリサさんの出身地である小湾で交流会をしました。城間では、敬老会に参加し、三線とエイサーを披露しました。南米で生まれ育った二人が上手にエイサーを踊り三線を弾くと、来場者は驚くと同時に、遠く離れた場所でも沖縄文化が守られていることに感心していました。



▲敬老会でエイサーと三線を披露

小湾では、老人会を訪問し、移民についてプレゼンテーションを行い、先祖が移民した経緯やペルーとブラジルの浦添市人会の活動の様子を紹介しました。老人会の方からは、「地球の裏側に、こんなにも沖縄へ想いを寄せている人たちがいることが分かった。」との感想がありました。



▲移民や南米についてのプレゼンテーション



▲熱心に聞く老人会の皆さん



▲南米のおもちゃ作り



▲スペイン語のカルタ遊び

「子どもたちに伝えたい」移民についてあまり馴染みのない若い世代にも移民について知ってもらおうと、浦添小学校と宮城小学校の「放課後子ども教室」に参加しました。一緒におもちゃを作ったり、スペイン語のカルタ遊びで交流し、海外の文化を伝えました。研修生の二人は「私たちは沖縄で文化を学んで、そして沖縄の人たちに海外の文化を教える。これはとても大切なこと。移民について伝えることが出来てとても嬉しい。」と語りまし

比嘉 森川 マリ エリサ 小湾出身 4世(ペルー)

この5か月間で多くのことを学びました。毎日日本語学校に行ったので、だんだん日本語が上達しました。私が学んだ最も大切なことは「イチャリバチョーデー」です。沖縄の景色が美しいように、沖縄の人の心も美しいです。みんなは温かく歓迎してくれました。沖縄の人は親切で本当に感謝しています。どうもありがとうございました。



大城 マリコ ブルーナ 城間出身 5世(ブラジル)

この5か月の間に三線と琉球舞踊、書道と生け花を学ぶことができました。それだけではなく「イチャリバチョーデー」の気持ちを感じました。親戚と会えたのはとても嬉しかったです。ブラジルではウチナーンチュ日系人が多いので、ここで学んだことを活かしたいです。いつまでも心の中に、この気持ちを持ち続けようと思います。

